



昨年10月よりアメリカ合衆国ペンシルベニア州フィラデルフィアのペンシルベニア大学（ペン大）に留学しています。海外だより執筆の機会をいただきましたので現地情報と研究内容の紹介をしたいと思います。

ペンシルベニア州はアメリカ東部に位置する日本の1/3ほどある大きな州です。フィラデルフィアは、その中の東端に位置する全米最古の街の一つです。この街はアメリカ合衆国発祥の地といわれ独立宣言や合衆国憲法が立案された場所で、人口は150万人ほどであり州内では最大の都市です（全米第5位）。フィラデルフィアには独立記念館（世界遺産）や、独立宣言公布時に鳴らされたといわれる自由の鐘といったアメリカ建国にとって重要な遺産が数多くあり、アメリカ人にとっては感慨深い場所といえます。交通の便は良く、北のニューヨークや南西のワシントンへ自動車でも2～3時間ほどです。各都市間や街の近郊には電車網が整備されています。ただし時刻表通りに電車は来ません。

またフィラデルフィアは工業都市として発展し、現在では観光、ビジネス、そして学問の街として栄えています。歴史的遺産、フィラデルフィア管弦楽団、フィラデルフィア美術館をはじめとするアート、アメリカ4大スポーツなど観光スポットが数多くあります。特にベースボールのフィラデルフィア・フィリーズは2008年にワールドシリーズで優勝するなどし、街に活気を与えています。現在日本人選手はいませんが、かつてヤクルトにいたチャーリー・マニエル氏が監督を務めています。また学問の街にふさわしく多数の大学や教育研究機関がフィラデルフィアやその周囲に存在しています。

ペン大は建国の父ベンジャミン・フランクリンが設立した私立大学です。創立は1740年と古く、全米初の

医学部を設置したことで知られています。大学の敷地は広大で他大学とともに一つの街を形成し活気にあふれています。ただしその西側は全米屈指の危険地帯です。日本人の学生や研究者などが、ここには200名ほどいますが、幸いなことに危険な事件に遭遇したという話は今のところ聞きません。ちなみに野口英世も一時はペン大に籍があったようです。研究活動は非常に活発で生物医学研究の分野だけでもその予算は5億ドルを超えます。アメリカでの生物医学研究に関する重要な研究拠点です。

私は正確には Hospital of the University of Pennsylvania（ペン大附属病院）の、Department of Pathology and Laboratory Medicine（臨床検査部）に留学しています。ペン大附属病院は760床ですが、隣に約460床の Children's Hospital Of Philadelphia という小児科の附属病院があります。検査部の担当はペン大附属病院だけですが、規模が大きく教授だけでも10名以上います。私は病理部門教授の Antonia Sepulveda 先生の下に留学しています。病理医はうらやましいほど多く、レジデントやフェローだけでも50名以上います。しかし私の研究チームは私のボスと研究者を含めわずか4人です。我々は炎症性腸疾患や慢性胃炎における発癌と過剰メチル化の関係などについて研究しています。分子生物学がほぼ素人の私は手技や原理については同僚の研究者に教わっています。また時間があるときには検査部での迅速診断、病理診断や遺伝子病理の検討会などに参加しています。私は病理診断にも積極的に遺伝子学的解析を関与させる必要性を感じていたため、遺伝子検査の手技や原理を学ぶこと、またアメリカでの病理診断と遺伝子検査の融合についての現状を実際に知ることは、良い機会と考えています。

アメリカ生活が始まって半年が経過しましたが、未だ生活の違い、言葉の壁、不慣れた仕事などに困難を感じる事がしばしばあります。ただそれら一つ一つを乗り越えるたびに、小さな充実感を感じています。今後も多くのことに挑戦しアメリカ生活を意義のあるものにしていきたいと思っています。

最後になりましたが、このような留学の機会を与えてくださった本田孝行教授はじめ多くの関係者の皆様方に御礼を申し上げます。また私の留守を今も必死で支えて下さっている多くの同僚に感謝いたします。

(2011年4月)

(信州大学医学部病態解析診断学講座所属)